

令和2年度 兵庫陶芸美術館運営委員会 議事概要

日 時：令和2年7月28日（火）13：30～15：00

場 所：兵庫陶芸美術館 セミナー室

出席者：運営委員8名、県芸術文化課1名、兵庫陶芸美術館9名

【報告、協議事項】

- 令和元年度事業実施結果、令和2年度事業計画
- 今後の特別展等、運営のあり方について

【意見】

[新型コロナウイルス感染症拡大の状況下における事業展開について]

- 特に年配の方は新型コロナウイルスの影響で外出を躊躇される方もおられるので、動画配信やビデオ・音声通信を活用して講座が受講できるようなシステムがあれば、多くの方に参加いただけるのではないかと。
- 新型コロナウイルス感染症拡大による巣ごもり生活を経て、こころのリラックスを求める方が増えており、芸術文化活動、美術館や博物館に対する関心が高まっていることを実感する。「来て良かったな」と思える事業を計画していただきたい。
- 移動自粛の状況の中、遠方からの集客は難しい。普段陶芸美術館ではしないような、やきものとは違う物にライトを当て、地域の人に来ていただくのも1つの方策ではないかと。
- 50年先を見据え、子供たちが大人になったときに美術館に行きたいという人たちを育てるため、所蔵品、本物の丹波焼に触れる機会を、幼稚園、学校への出前講座として開催してほしい。

[地域との連携について]

- 丹波焼の里に立地する陶芸美術館として、年間を通して丹波焼の企画展を開催しているのは、この地を訪問していただく良い機会となる。陶芸体験や丹波焼最古の登窯の活用など、地元としても美術館と連携してやきものの里ますますの活性化を図っていききたい。
- やきものの里には、優れた自然や、生活の場と一体になった工房、ギャラリーなど変わらぬ風景に価値がある。イベント等での集客は難しい時期の今は、地元のネットワークを強めて将来に活かすべき。

[今後の美術館のあり方について]

- 展覧会という場で、メッセージを世界に発信していくため、動画による配信やリモートによる対応等、さまざまなメディアを駆使して表現を配信し続けていくことが重要である。